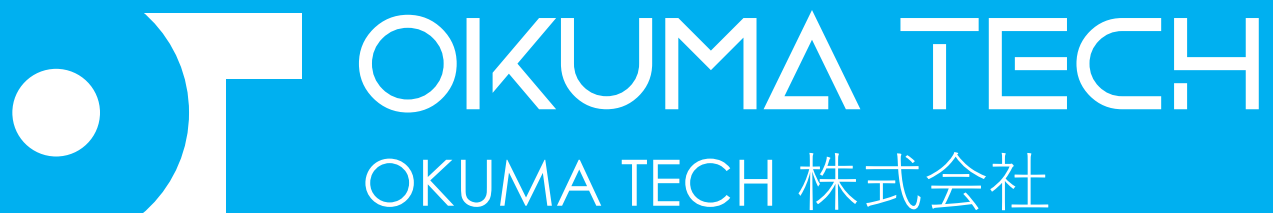
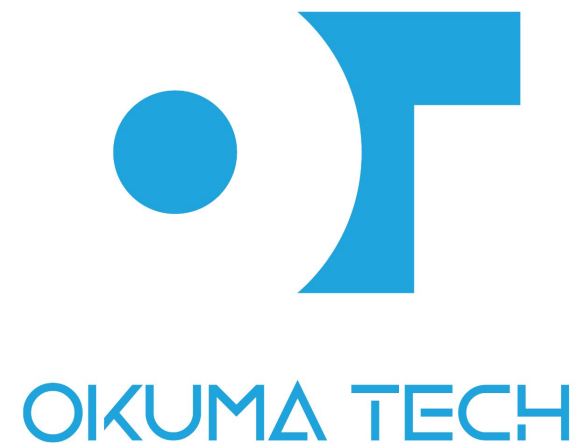
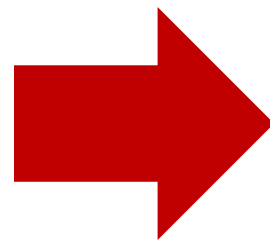


新製品紹介と当社の取組み



社名変更について

ドローンだけではなく、水素事業を積極展開！



水素関連事業



積載量40kgの水素燃料ドローン

本日より販売受付開始！



1kwと3kw可搬式水素発電装置

水素関連技術の研究開発

発電装置として様々な場所で利用可能
今年は複数のデモを実施決定



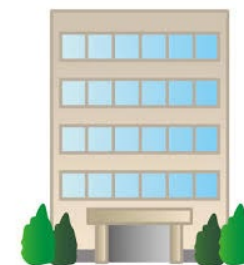
屋外道路
工事現場



自治体施設



テナント
ビル内診療所



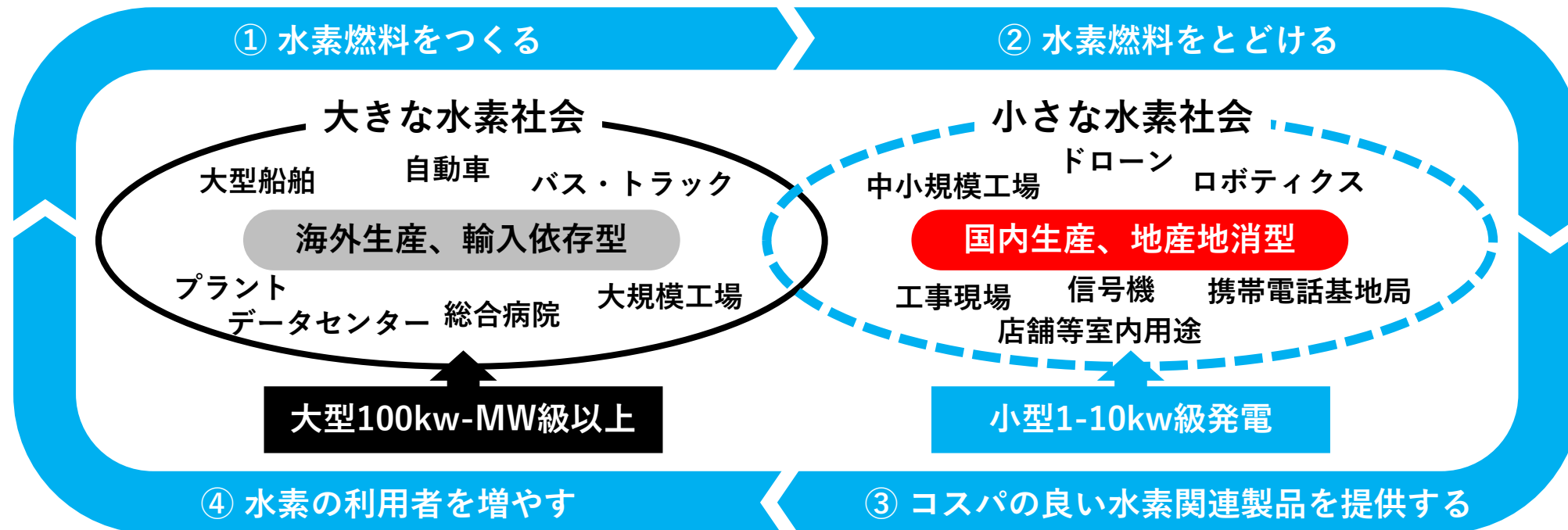
近日デモ実施決定！

グリーン水素(課題)

グリーン水素

製造には、水を電気分解することで水素を取り出す方法を用います。その中でも特に、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを使って電気分解したものを区別して、グリーン水素と呼んでいます。製造過程で炭素が一切生成されないため、最も理想的な水素といえるでしょう。ただ残念ながら、大量生産が難しく、高価で取引されているのが現状です。そのような状況を打開すべく、世界で約350ものプロジェクトが進行しています。

水素サプライチェーンの構築



地産地消型の小さな水素社会

水素サプライチェーンの構築

地産地消型の小さな水素社会構築の実現を目指す

① 水素燃料をつくる

2023年度の実出力制御による
太陽光発電の廃棄量

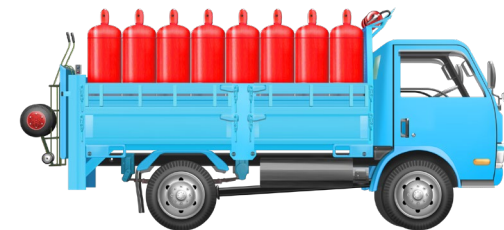
19億キロワット



地域の太陽光発電所



独自の小型高効率
水素製造装置



地域高圧ガス事業者

④ 水素の利用者を増やす

③ 国産燃料電池を安く提供する

地産地消型 小さな水素社会バリューチェーン

非常用利用

日常利用

医療

災害支援

通信

工場

福島県の二酸化炭素排出量は年間1,500万トン
うち工場：38% 福島県内：3,000社

住宅

地域交通

ドローン

工事

大熊町では
災害非常時電力供給を
水素エネルギーで対応する
レジリエンス構想を検討中

太陽光発電所

福島県設置数：613件
総発電量：26,486MW

出力制御による
太陽光発電の廃棄量
年19億キロワット

余剰電力活用

水素製造装置

地域内高圧ガス事業者

地域でつかう

地域でつくる

地域にはこぶ

小さくためる

「小さな水素社会WG」の発足



「小さな水素社会WG」の発足

小さな水素社会ワーキンググループ会員のご紹介（順不同）

■参加企業団体

	会社名	氏名
1	ユアサ商事株式会社	三原 豊様
2	高压ガス工業株式会社	中井 康夫様
3	株式会社エノア	武藤 友祐様
4	株式会社キッツ	三宅 修司様
5	プラザー工業株式会社	伊藤様
6	スズキ株式会社	藤谷様
7	常磐共同ガス株式会社	小笹 年男様
8	オールナビクアウト株式会社	武田 邦義様
9	エア合同会社	黒川 浩之様
10	株式会社伊達重機	前司 昭博様
11	福島水素ドローン産業化推進協議会	貝應様
12	Hamadoori 13	吉田 学様
13	ビジネスゲートウェイ株式会社	黒田 敦史様
14	OKUMA DRONE株式会社	李 顕一様

■参加地方公共団体

	会社名	氏名
1	大熊町ゼ「か-ず」推進課	羽田 康浩様
2	福島県浪江町役場 産業振興課 新エネルギー推進係	藤田 知宏様
3	長崎県 産業労働部 新エネルギー推進室	糸瀬 大貴様



発足した地産地消型の小さな水素社会構築WGのメンバー

水素の地産地消推進

県再生可能エネルギー関連産業推進研究会は、地産地消による分散型の水素活用モデル構築を目指す「地産地消型の小さな水素社会構築ワーキンググループ（WG）」を発足させた。24日、大熊町のCREVAおおくまでキックオフ会議を開いた。水素ドローンや水素小型発電装置などを開発する大熊町の「OKUMA DRONE（オオクマドローン）」が中心となり、水素関連の県内外の事業者、団体14組織と大熊町、浪江町、長崎県で構成する。太陽光発電の余剰電力で水素を製造して地元に配送し、電源や燃料などとして活用するシステムを実現する。既存の太陽光発電を生かした地産地消型に変えることでコストを下げ、3年後に海外への展開を目指す。キックオフ会議には、県再生可能エネルギー関連産業推進研究会は24日、水素に特化して事業化を目指す「地産地消型の小さな水素社会構築ワーキンググループ」を設置した。大熊町を拠点として水素の製造、貯蔵、運搬、利活用までの一連の業務の事業化を進め、水素社会の実現に向けた地域モデルを構築する。

県再生可能エネルギー関連産業推進研究会がWG活用モデル構築目指す

大熊で水素事業化へ

製造から利活用まで

県再生可能エネルギー研究会が作業部会

大熊町で24日、ワーキンググループの初会合が開かれた。水素ドローンの開発研究などを手がけるOKUMA DRONE（オオクマドローン、大熊町）が幹事企業を務める。同社の李顕一社長は「各社のノウハウを生かし、水素社会の実現に向けた仕組みを構築していく。国内、世界へと、その取り組みを広げていきたい」と展望を語った。

水素社会の実現に向けて意気込みを語る李社長

「小さな水素社会WG」の第2回の様子



「小さな水素社会WG」の目指すゴール

福島からスタートし、全国各地に展開！

2025年

2026年

2027年

要件定義

- ★3/24@大熊町
- ★6/12@福島市
- ☆8月@浪江町
- ☆10月@REIF
- ☆12月@大熊町
- ☆3月@大熊町

導入準備

- ☆3月 第7回
- ☆6月 第8回
- ☆8月 第9回
- ☆10月 第10回
- ☆12月 第11回
- ☆3月 第12回

実稼働

- ☆3月 第13回
- ☆6月 第14回
- ☆8月 第15回
- ☆10月 第16回
- ☆12月 第17回
- ☆3月 第18回

ご清聴ありがとうございました。